

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 22 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22330043

研究課題名（和文） 近代東アジアのナショナリズムの相克——日清戦争以後の日本・中国・韓国

研究課題名（英文） Conflicts among the East Asian Countries in modern times: Japan, China, Korea after Chino-Japanese War

研究代表者 米原 謙 (YONEHARA KEN) 大阪大学・大学院国際公共政策研究科・教授

研究者番号：30137301

研究成果の概要（和文）：日本政治思想史、日本政治史、国際関係思想史、東アジア近代史などを専攻する研究者7名による共同研究である。3年間に日本国内での研究会を数回行なったほか、中国で2回（北京、広州）、韓国で1回（済州島）、台湾で1回（台北）の国際コンファレンスをおこなって、海外の研究者との交流にも積極的に取り組んだ。共同研究者はこの間に論文、著書などを意欲的に公表した。

研究成果の概要（英文）：This research is a collaboration of 7 members whoes majors are history of Japanese political thought, history of Japanese politics, political thoght of international relations and East Asian modern history. During 3 years we took the several conferences not only in Japan but in China, Korea and Taiwan. All members energetically published their works.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2011年度	2,800,000	840,000	3,640,000
2012年度	3,000,000	900,000	3,900,000
年度			
年度			
総計	9,400,000	2,820,000	12,220,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：ナショナリズム、近代東アジア、ナショナル・アイデンティティ

1. 研究開始当初の背景

(1) 冷戦終結後、東アジアの国際秩序が新たな再編の時期に突入した。原因は多様だが、根底には冷戦によって塩漬けされていた歴史の地層があちこちで隆起してきた。東アジアの近代は、過去形で語るにはあまりにも生々しいインパクトを与えている。東アジアでは歴史認識をめぐる、これまでにない激しいナショナリズムの高揚が生じており、それは今後の東アジアの平和や安定に大きな不安定要因となっている。争点となった慰安

婦問題、戦後補償問題、領土問題などは、中国や韓国のナショナリズムをこれまでにないほど激化させただけでなく、他方ではそうした批判に反発する日本の側の激しいナショナリズムを生み出した。

(2) 日本では、従軍慰安婦問題をめぐって新たなナショナリズムがうねり始めた。その中心的活動家たちが作った『新しい歴史教科書』（2001年）には、歴史の記述の仕方は民族によって異なるのが当然だという思想が表明されている。それは「国民の物語」を創

出すという意図にもとづき、神武天皇の東征や日本武尊の伝承の紹介に数ページを割り、さらに神話や伝説は古代人の考え方を知る「文化遺産」だとして、『古事記』神代の内容を四頁にわたって要約している。こうした日本の状況を考慮しつつ、本研究は日本・中国・韓国のナショナリズムの生成を歴史的な観点から考察解明するとともに、三国の研究者の相互交流を通じて、ナショナリズムの悪循環に終止符を打ちたいと考えた。

(3) 内閣府がおこなった「外交に関する世論調査」(1978年～2010年)によると、韓国については、1990年代以後、親近感が増加しているのに対して、中国に関する親近感は、1980年の78パーセントをピークに漸次後退し、最悪の状態にある。こうした状況に対して、歴史的なアプローチによる問題解決の探求が不可欠である。

2. 研究の目的

日清戦争後の日本・中国・韓国の対立・衝突をこの地域のナショナリズムの相互関係として理解し、一国史的な近代史研究の欠点の克服する。その背後には以下のような問題意識がある。

(1) 今日、東アジアの国々を訪れる人は、至るところに「抗日」を記念する施設やモニュメントを目にする。それは戦後の国民国家の再構築が「抗日」の歴史的記憶を凝集核にしてきたからであり、その記憶は状況や時宜に応じて再生産される。つまり対外関係における一国を挙げての栄光や屈辱はナショナリズムの最高の資源であり、国民国家がナショナリズムなしに存続しえないとすれば、禍害は何度でも新たに語り継がれることになる。

(2) 従来の日本ナショナリズムについて支配的なパラダイムである「健全なナショナリズム」から「侵略的ナショナリズム」への転換という図式は自国中心的で、日本以外では通用しない。従来の日本ナショナリズム理解の枠組みを否定し、外面的な変化にもかかわらず、そこに一貫する内在的性格を取り出して考察しなければならない。つまり、一国史的なナショナリズム理解の欠陥を確認し、東アジアという地域のなかで、国民国家間の相互作用としてナショナリズムという現象を考察することが肝要である。本研究はこうした問題意識に立って、東アジア史のなかで、諸国家・諸国民の相互関係としてナショナリズムの問題を考察することを目的とした。

3. 研究の方法

上記のような認識に立って、ナショナリズムを一国で完結したものとしてではなく、東アジアの地域史として理解することに留意した。換言すれば、東アジア三国のナショナ

リズムをそれぞれのナショナル・アイデンティティの形成過程として捉え、その相互の影響・衝突・妥協・屈服・抵抗などのプロセスとして理解する視点を重視する。このため具体的には以下のような方法を採用した。

(1) 共同研究者相互の専攻分野や方法論の違いを生かし、問題の多面的な側面を取り出して考察する。

(2) 日本国内での研究会だけでなく、中国・韓国・台湾などで国際コンファランスを開催し、認識の違いや対立点などを研究の中に盛り込めるように努力する。

(3) 研究会やコンファランスでは、異なった分野やアジア以外の研究者を積極的に招聘する。

4. 研究成果

(1) 2010年度に中国人民大学(北京)と広東外語外貿大学(広州)、2011年度に済州大学(韓国済州島)、2012年度に中国文化大学(台北)で、それぞれ国際コンファランスを開催し、各地の研究者と対話をし相互理解を促進できた。

(2) 台北でのコンファランスは、研究代表者の所属先である大阪大学大学院国際公共政策研究科と学術交流がある中国文化大学で開催したので、台北だけでなく台湾各地から多数の参加者があった。学術交流として意義深い成果があっただけでなく、日中韓三国の対立の狭間になり、軽視されがちな台湾を研究の視野に入れることができた。

(3) 研究会やコンファランスのゲスト・スピーカーとしてフランス人やメキシコ人の日本研究者を招いた。かれらの研究は本研究に刺激となり、第三者の視点を取り込む意義があったが、ゲスト・スピーカーに対しては本研究が刺激を与えたといえる。

(4) 共同研究参加者のうち、研究代表者の米原謙と分担者の金鳳珍・區建英は三人の共著『東アジアのナショナリズムの近代——なぜ対立するのか』(大阪大学出版会)を公刊した。本書は米原が日本、區が中国、金が朝鮮の部分を担当して、三国のナショナリズムの誕生と展開を歴史的に考察したものである。叙述は近代を主としているが、序章と終章で現代までの展開を簡単に記述し、現代を歴史的な視点で理解する必要性を強調したものである。

(5) 分担研究者の川田稔は著書『昭和陸軍の軌跡』で山本七平賞を受賞した。本書は満州事変から対米戦争までの軌跡を永田鉄山・石原莞爾などを中心に政治史と政治思想の両面から描いたもので、本共同研究の副産物である。日本のナショナリズムや大陸問題について陸軍の見方を分析紹介したもので、研究者だけでなく、一般の読書家にも大きな刺激を与えた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

- ①米原謙、裕仁皇太子の台湾行啓——「一視同仁」の演出——、阪大法学、62-6、査読無、2013、261-305
- ②田中仁、日中関係の転機と歴史叙述—革命の語り、戦争の記憶、OUCFブックレット第1巻、査読無、2013、64—84
- ③米原謙、地球上絶無稀有ノ国体を護持するために——岩倉具視の構想、阪大法学、61-6、査読無、2012、1-53
- ④田中仁、關於三大報紙有關“抗戦建国紀念日”社論的話語分析、現代中国變動與東亜新格局、第1輯、査読無、2012、233—246
- ⑤金鳳珍、辛亥革命と韓国独立運動、中国研究月報、66-3、査読有、2012、11—18
- ⑥金鳳珍、韓国から見た『韓国併合』、経済史研究 15、査読無、2012、57—76
- ⑦Kim Bonjin, The 1911 Revolution and the Korean Independence Movement, *Journal of Cultural Interaction in East Asia*, Vol.3, 査読無、2012、19-34
- ⑧區建英、嚴復の西洋思想受容——「個」と自由を中心に——、アダム・スミスの会会報、第79号、査読無、2012、1-6
- ⑨邊英浩、李退溪における政治—在地士族の視点より—、退溪学論集、第9号、査読無、2011、316-341
- ⑩區建英、中国における「自由」の受容——伝統の位相と嚴復の「会通」、大妻女子大学研究所年報、第4号、査読無、2011、45—53
- ⑪米原謙、神々の欲望と秩序——幕末国学の国体論、阪大法学、60-1、査読無、2010、1-40
- ⑫田中仁、日中戦争前期における華北農村と中国共産党：河北省涞源県の「800日」、中国社会主义文化の研究、査読有、2010、389-414

[学会発表] (計 11 件)

- ①米原謙、裕仁皇太子の台湾行啓——「国体」の演出、国際コンファランス「東亜諸国のナショナリズム——歴史と現状」、中国文化大学、2012年11月22—23日
- ②米原謙、日本ナショナリズムにおける“アメリカの影”、南開大学、2012年11月18日
- ③米原謙、日本人はアジアをどのように見ていたか、天津師範大学、2012年11月18日
- ④米原謙、現代日本のナショナリズム、国際シンポジウム「中国と日本——その自画像と他画像」、中国社会科学院日本研究所、2012年11月17日
- ⑤邊英浩「共通（公共）善与朝鮮儒者 —以李退溪・李栗谷为中心—」、東亜共通善之探

求：亜里斯多德和儒学的哲学對話國際學術研討会、台湾大学哲学系、2012年10月6日、
⑥區建英、嚴復の思想における個人自由と公共性、国際シンポジウム「中国近現代社会文化史國際學術研討会」、北京・紫玉ホテル、2012年9月21—22日

- ⑦邊英浩、共通善と李退溪、第1回共通善教育研究フォーラム、岡山大学、2012年3月25—26日
- ⑧區建英、丸山思想史と中国近代思想の省察、丸山真男文庫記念講演会、東京女子大学、2010年11月5日
- ⑨米原謙、日本ナショナリズムと東アジア、国際學術會議「東アジアの歴史と思想」、成蹊大学、2011年9月24—25日
- ⑩區建英、嚴復の西洋思想受容——個と自由を中心に——、東京ガーデンパレス、2011年5月14日
- ⑪米原謙、後藤新平と徳富蘇峰、「後藤新平と同時代人 Part2」、日本プレスセンター、2010年7月10日

[図書] (計 11 件)

- ①川田稔、『戦前日本の安全保障』、講談社、2013年、293頁。
- ②鳥居明雄、伊香俊哉、岸清香、重富恵子、山本芳美、邊英浩、福田誠治、内山史子、水野光朗、分田順子、大辻千恵子、大森一輝、『せめぎあう記憶—歴史の再構築をめぐる比較文化論—』柏書房、2013年、392頁
- ③小林道彦、高橋勝浩、奈良岡聰智、西田敏宏、森靖夫（編）『内田康哉関係資料集成』全3巻、柏書房、2012年、各巻706頁、777頁、368頁
- ④黒木文貴、イアン・ニッシュ、小菅信子、ジャック・チャーカー、スティーブン・メトカフ、マーティン・ウィルソン、フィリップ・メイリンズ、恵子・ホームズ、杉野明、フィリダ・パーヴィス、波多野澄雄、剣持久木、庄司潤一郎、リオネル・バビッチ、林景一、フィリップ・トゥル、金鳳珍、李恩民、キャロライン・ローズ、茂木敏夫『歴史と和解』、東京大学出版会、2011年、440頁
- ⑤川田稔、『昭和陸軍の軌跡』中央公論社、2011年、343頁。
- ⑥米原謙、金鳳珍、區建英、『東アジアのナショナリズムと近代』大阪大学出版会、2011年、345頁
- ⑦川田稔、『満州事変と政党政治』、2010年、講談社、258頁
- ⑧邊英浩、『朝鮮儒教の特質と現代韓国——李退溪・李栗谷から朴正熙まで——』図書出版クレイン、2010年、360頁
- ⑨區建英、『信頼・互惠・共生——東亜地区的歴史与現実』中国伝媒大学出版社、2010年、245頁

- ⑩藤井讓治、岩崎奈緒子、水本邦彦、安国良一、東谷智、柴田純、青山忠正、高木博志、伊藤之雄、西田敏宏、坂根嘉弘、伊藤孝夫、水野直樹、中西寛『日本の歴史—近世・近現代編—』、ミネルヴァ書房、2010年、428頁
- ⑪吉田忠、佐藤慎一、茂木敏夫、前田勉、桐原健真、川尻文彦、大久保健晴、金鳳珍、姜東局、『19世紀東アジアにおける国際秩序観の比較研究』、財団法人国際高等研究所、2010年、261頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

米原 謙 (YONEHARA KEN)
大阪大学大学院国際公共政策研究科・教授
研究者番号：30137301

(2) 研究分担者

川田 稔 (KAWADA MINORU)
日本福祉大学・福祉社会学部・教授
研究者番号：20115554

田中 仁 (TANAKA HITOSI)
大阪大学・大学院法学研究科・教授
研究者番号：60171790

金 鳳珍 (KIM Bonjin)
北九州市立大学・外国語学部・教授
研究者番号：90254614

區 建英 (OU JIANGYING)
新潟国際情報大学・情報文化学部・教授
研究者番号：20267701

邊 英浩 (BYONG YONGHO)
都留文科大学・文学部・教授
研究者番号：50264693

西田 敏宏 (NISHIDA TOSHIHIRO)
椋山女学園大学・現代マネジメント学部准教授
研究者番号：90362566